

# 河合栄治郎著作目録

松田義男編  
改訂 2019年 5月 16日  
2009年 11月 30日

## 目次

1. 著書（共著・編著・冊子含む）
2. 論文等（新聞・雑誌掲載）

## 凡例

- \*著作の形態に応じて、「1. 著書」、「2. 論文等」に分類し、それぞれを年次順に配列した。
- \*単行書の再版・増補版は、原則として、初版に一括して[ ]に注記した。
- \*単行書のうち叢書名と巻書名がある場合、巻書名を表題として採用し、叢書名を< >に示した。
- \*単行書収録評論について、目次中の表題と本文表題とが異なる場合、原則として本文表題を採用した。
- \*単行書のうち、編著・共著・共訳・監修の別については、[ ]に示した。
- \*新聞・雑誌の連載は、初回掲載に一括した。
- \*雑誌目次中の表題と本文表題とが異なる場合、原則として本文表題を採用した。
- \*新聞・雑誌の特集名・掲載欄を適宜[ ]で示したほか、無題の場合は[ ]に示して仮題とした。
- \*座談会・対談などについては、[ ]に実施年月日、出席者などを記した。
- \*掲載雑誌の巻号数は、第1巻第1号→1-1と表記し、日刊新聞の号数は省略した。
- \*新聞の朝刊・夕刊については、夕刊についてのみ[夕刊]と注記した。
- \*初出の注記として収録書を示した。収録書のうち、『河合栄治郎選集』（日本評論社、1946-1950年）は『選集』、『河合栄治郎全集』〈現代教養文庫〉（社会思想研究会出版部、1952-55年）は『全集』〈現代教養文庫〉、社会思想研究会編『河合栄治郎全集』（社会思想社、1967-1970年）は『全集』と略記した。
- \*編者未見の著作については、表題冒頭に\*を付した。
- \*著書の概要について参考までに【 】に記した。
- \*その他、編者の注記は適宜[ ]で示した。

本著作目録の作成に際しては、全集編纂室編「著作目録」（『河合栄治郎全集 別巻』、1970年）を参照し、国立国会図書館、日本近代文学館、早稲田大学中央図書館、岡山大学付属図書館、京都大学経済学部図書室、神戸市立中央図書館、神戸大学社会科学系図書館、同志社大学人文科学研究so・同今出川図書館、大阪府立中央図書館、法政大学大原社会問題研究所、東京大学経済学部図書室より資料閲覧の便宜を得ました。付記して謝意を表します。

## 1. 著書（共著・編著・冊子含む）

『工業金融に関する調査』＜調査資料 14＞臨時産業調査局、1918年7月16日【1 機械工業の金融問題、2 動産抵当必要論、3 本邦工業組織の改善と金融問題】

独逸に於ける強制的企業合同『調査資料』15、臨時産業調査局、1918年7月20日

本邦機械工業の外観『調査資料』15、臨時産業調査局、1918年7月20日

機械工業の原料問題『調査資料』15、臨時産業調査局、1918年7月20日

『労働問題研究』岩波書店、1920年4月8日【1 労働問題に対する志を云ふ、2 工場法の実施に就て、3 欧州大陸に於ける労働法規の実施に就て【翻訳】、4 エラスムスとルーテル、5「国際労働問題を論ず」（書き下ろし）、6 流行となれる労働問題、7 労働問題に対する社会的施設、8 労働運動の根本精神、9 労働政策の基調を論ず、10 我国当面の労働政策、11 社会政策の分岐点（労働組合論）、12 労働時間問題を論ず、13「失業の予防及び扶助」（書き下ろし）、14 米国の労働立法と労働運動】[1、4の2篇を『全集 16』、1、4を除く12篇を『全集 10』収録]

社会政策[1922年講演速記於夏季国勢院統計講習会]『国勢院統計講習会講演録』帝国地方行政学会、1923年5月3日

『社会思想史研究 第1巻』岩波書店、1923年12月8日【1 アダム・スミスと自由主義経済学、2 ジェレミー・ベンサムと功利主義経済学、3 英国思想史の過渡時代、4 過渡的思想家としてのジョン・スチュアート・ミル】[『増訂 社会思想史研究』岩波書店、1940年6月24日【「寛容の思想に関する研究」を増補】、『全集 4』収録]

\*『現代日本の諸問題に対する態度』海軍火薬廠、1926年4月＜パンフレット＞

社会政策『内閣統計講習会講演録』内閣統計局編、帝国地方行政学会、1926年12月31日

『在欧通信』改造社、1926年5月3日【1 英国労働運動、2 倫敦生活、3 ウッドブルック・セトルメント、4 夏の英国、5 オックスフォードの学園、6 大陸に立つ迄、7 独逸学界の印象、8 帰朝の途に就く】[『欧州最近の動向』収録の「露西亞の旅」「八年振りの英国」を増補して『選集 5』（日本評論社、1948年2月20日）刊。『全集 17』収録。「倫敦生活」、「夏の英国」、「オックスフォードの学園」は『世界紀行文学全集第3巻イギリス』（修道社、1959年）収録]

ミルの「自由論」『社会経済体系』第1巻、日本評論社、1926年12月10日[1931年版『社会経済体系』第19巻収録、「ミルの自由論を読む」と改題、『自由主義の歴史と理論—東大に於ける特別講義—』、『全集 11』収録]【1 緒論、2 自由論の由来、3 自由論の内容、4～5 自由論の批判、6 自由論の意義】

外国雑誌の紹介 英国の部『社会経済体系』第1巻、日本評論社、1926年12月10日

経済学と社会哲学『社会経済体系』第2巻、日本評論社、1926年12月25日

英国派社会主義『社会経済体系』第9～13、15巻、日本評論社、1927年7月30日、8月30日、9月30日、10月30日、11月30日、1928年2月20日【序論、十八世紀末まで、十九世紀前期、十九世紀中葉、十九世紀後期(其の一)、十九世紀後期(其の二)、二十世紀、英国社会主義の特異性】[「英国派社会主義序論」と改題『英国社会主義史研究』、「英国派社会主義史概論」と改題『選集 4』、『全集 5』収録]

『英国の住宅政策』＜市政調査資料 第12号＞東京市政調査会、1927年3月28日【序論、前編戦前及戦中に於ける住宅政策、後編戦後の住宅政策】

トーマス・ヒル・グリーンの自由論『政治学研究 小野塚教授在職廿五年記念 第2巻』岩波書店、1927年12月25日

自由主義『社会経済体系』20巻、日本評論社、1928年10月15日

『社会政策』〈帝国大学講座 40〉国文社、1928年5月1日【1. 社会問題と社会政策、2. 現存秩序の解剖、3 社会哲学、4. 社会思想、5. 社会政策、アダムスミスの影響と残したる問題、ジェレミー・ベンサムと功利主義経済学、過渡的思想家としてのジョン・スチュアート・ミル、トーマス・ヒル・グリーン】の社会哲学】

慾望の理論『経済学研究 山崎教授還暦祝賀記念 第1巻』日本評論社、1929年4月17日

『英国労働党のイデオロギー』〈英国労働党叢書 第2編〉千倉書房、1929年9月10日【英国労働党のイデオロギー(1929年6月23日於講演朝日講堂)、労働党首領ラムゼー・マクドナルド】[「英国に於ける最近の政情」を増補して『英国労働党のイデオロギー[増補版]』(九州書院、1947年1月15日)刊。増補版を『全集6』収録]

日本人はもつと伝記に親しめ『昭和新教育に即すべき教育名論卓説集』教材研究会編、教育出版社、1929年10月10日

『特別講義 トーマス・ヒル・グリーンノ社会思想』〈謄写版 1930年度東京帝国大学講義〉文信社、1929年12月12日

自由主義、新自由主義『社会科学大辞典』改造社、1930年5月15日[改訂縮刷：『改訂縮刷 社会科学大辞典』(改造社、1932年4月8日)]

『トーマス・ヒル・グリーン】の思想体系 上・下巻』日本評論社、1930年7月25日、11月1日[改装版：1938年4月25日]【上：1緒論、2千八百七八十年代の英国(上)、3千八百七八十年代の英国(下)、4英国理想主義運動、5 グリーンの生涯、6 グリーンの思想体系と学風、7 グリーンの認識論、8 グリーンの欲望論、9 グリーンの観たる「自由」の概念、下：10 グリーンの道徳哲学、11 グリーンの宗教論、12 グリーンの社会哲学、13 グリーンの社会思想、14 グリーン以後の思想界、15 グリーンの残したる課題】[『選集7』・『選集8』、『全集1』・『全集2』収録]

英国に於ける土地社会主義『農業政策の諸問題 矢作教授還暦祝賀記念』河津暹等編、日本評論社、1931年6月1日[『英国社会主義史研究』、『選集4』、『全集5』収録]

英国思想界に於けるグリーン】の地位『欧米社会思想とその批判』思想問題研究会編、社会教育会、1931年8月3日

『社会政策原理』〈現代経済学全集 第8巻〉日本評論社、1931年8月10日【1緒論、2 社会問題、3 資本主義の解剖、4 資本主義の批判、5 各社会思想の批判】[改訂版：『改訂 社会政策原理』〈経済学体系 第1巻〉日本評論社、1935年5月15日。『選集3』、『全集3』収録]

現今の思想問題と教育者の態度『最新公民科資料精説 昭和六年八月公民教育講習会講演集』文部省普通実業学務局編、帝国公民教育協会、1931年12月1日

『大学生生活の反省』日本評論社、1931年12月15日【第1大学の自由 1 大学に於ける自由主義の使命、2 大学に於ける自由、3 嫌悪すべき学界の一傾向、4 大学の運命と使命(森戸辰男氏に答ふ)、5 大学の運命と使命(再び森戸辰男氏に答ふ)、6 大学の自由とは何か、第2大学の教育 1 大学生生活の意義、2 新入学生を迎ふ、3 学窓を出でたる友に送る、4 研究所の設立、5 就職難と大学教育、6 大学教育の再吟味、7 一社会学徒の主問題、8 現代学生とマルキシズム】[新版：鬼怒書房、1948年10月15日。『全集15』収録]

\*マルキシズム批判『講演集 第一輯』南佐久教育会、1931年12月〈県立長野図書館所蔵〉

『国家社会主義の解剖』〈経済研究叢書 第35輯〉日本工業倶楽部経済研究会、1932年3月[1932年2月25日講演筆記於日本工業倶楽部経済研究会例会][「日本に於ける国家社会主義的傾向」と改題『社会思想と理想主義』、『全集13』収録]

『書齋の窓から』日本評論社、1932年3月20日【序、1自由主義、2朝鮮のこと、3高原より、4一学徒の手記、5読書その折々、6身辺雑記、7心の中の問答、8高原の生活、9人物評論の論、10高原より、11冬日の随想、12愛の生活】[『全集15』収録]

現代学生とマルキシズム『国際パンフレット通信』521別冊、タイムス通信社、1932年8月11日【1緒言、2青年学生間に於けるマルキシズム傾向の重要性、3青年学生間にマルキシズムの入りたる原因、4マルキシズムの対策】

『マルキシズムとは何か』[非売品]雨潤会編、タイムス出版社、1932年12月5日[『河合栄治郎全集21マルキシズムとは何か』<現代教養文庫79>(社会思想研究会出版部、1953年5月)、『全集12』収録]  
【第1編現代学生とマルキシズム1緒言、2青年学生間に於けるマルキシズム傾向の重要性、3青年学生間にマルキシズムの入りたる原因、4マルキシズムの対策、第2編マルキシズムの哲学(マルキシズム内容の一)、第3編マルキシズム哲学の批評、第4編資本主義の解剖(マルキシズム内容の二)、第5編資本主義解剖の批評、第6編社会主義実現の方法、第7編社会主義実現方法に対する批評、第8編結論】

『学生思想問題』河合栄治郎・蟬山政道共著、岩波書店、1932年5月5日[復刻：『近代日本青年期教育叢書第1期(青年期教育論)第4巻』(日本図書センター、1990年)。本論のみ『全集19』収録]

『最近欧羅巴の社会情勢』[5月26日講演]<社会労働問題講演集第1輯>関東産業団体聯合会事務所、1933年7月10日[「独逸国民社会主義の解剖」と改題『社会思想と理想主義』、『全集13』収録]

『欧洲最近の動向』日本評論社、1934年9月7日【1ヒットラーの国民社会主義運動、2独逸社会民主党とマルキシズムの修正、3コミンテルンの崩壊、4英国総選挙の批判、5英国社会運動の変調、付録1独逸学界の印象、2露西亜の旅、3八年振りの英国】[『全集6』収録]

世界最近の傾向『東京鉄道局長主任講習会講話集 昭和九年度』通俗大学会事務局、1934年11月25日

『ファシズム批判』日本評論社、1934年12月20日[復刻版：2016年、新装復刻版：2018年]【1非常時の実相とその克服、2五・一五事件の批判、3国家社会主義の批判、4国家社会主義抬頭の由来、5国家主義の批判、6国際的不安の克服、7ミルの「自由論」を読む、8瀧川事件と大学自由の問題、9国家・大学・大学令、10議会主義と独裁主義との対立、11マルキシズム・ファシズム・リベラリズムの鼎立、12自由主義の再検討、13現代に於ける自由主義】[『全集11』収録]

『学生生活』日本評論社、1935年6月20日【1現代学生に与ふ、2大学生生活の意義、3一社会改革者の内的煩悶、4教育とマルキシズム、5読書雑感、6エラスムスとルーテル、7高等学校時代の読書、8教育制度改革案、9高等学校論、10大学改造論、11ベルンシュタインの思ひ出、12新渡戸稲造博士、13逝ける金井延博士、14人としての矢作栄蔵先生、15人としての江原万里君、16官に就くに際して、17官を辞するに際して】[改題改訂版：『第一 学生生活』日本評論社、1937年5月30日[『選集2』、『全集16』収録]

独逸社会民主党の成立—ゴータ合同の経緯—『経済学の諸問題 河津教授還暦祝賀記念』森荘三郎編、有斐閣、1935年5月5日[『選集10』収録]

資本主義の改革『青年学校講話資料 要目準拠』金井真澄編、第一出版協会、1935年9月25日

『社会思想家評伝』日本評論社、1936年5月31日【1ジェレミー・ベンサム、2ジョン・スチュアート・ミル、3トーマス・ヒル・グリーン、4フェルゼナンド・ラッサール】[『選集1』、『全集7』収録]

新渡戸先生の思出『新渡戸博士追憶集』故新渡戸博士記念事業実行委員、1936年11月25日

序『学生と教養』[編著]日本評論社、1936年12月10日[新版：<現代教養文庫>社会思想研究会出版部、1953年]

学生時代の回顧『学生と教養』[編著]日本評論社、1936年12月10日[新版：<現代教養文庫>社会思想研究会出版部、1953年。『第二学生生活』、『現代随想全集第7巻』、『全集17』収録]

現在の経済機構を中心としての種々相『鉄道と文化』鉄道道友会、1936年12月22日

『時局と自由主義』日本評論社、1937年4月28日【1 美濃部問題の批判、2 改革原理としての自由主義、3 二・二六事件の批判、4 時局に対して志を云ふ、5 教育者に寄するの言、6 二・二六事件の回顧、7 自由主義の批判を繞る思想界の鳥瞰、8 自由主義とマルクス主義との相克、9 自由主義論争の結末】[『全集12』収録]

『第二 学生生活』日本評論社、1937年5月27日【第1 学生生活 1 大学予科の生活、2 大学入学受験者に与ふ、3 大学生生活論、4 教学刷新と学制改革、5 自然科学の学生と教養、6 「青年の書」を読む、7 時局と学生、8 帰省に就て学生に与ふ、9 試験に就て学生に与ふ、10 就職に就て学生に与ふ、11 卒業学生に与ふ、12 学窓を出づる女性に与ふ、第2 著者自らを語る 13 学生時代の回顧、14 学窓を出でたる後、15 台湾の旅、16 近頃の随想、17 二・二六日の思出】[「青年の書」を読む、台湾の旅を除き、新版：社会思想研究会出版部、1948年9月15日][『全集17』収録]

序文『学生と生活』[編著]日本評論社、1937年7月17日[『全集18』収録]

友情『学生と生活』[編著]日本評論社、1937年7月17日[『学窓記』、『全集18』収録]

序文『学生と先哲』[編著]日本評論社、1937年12月27日[第2版：1946年11月10日。『全集18』収録]

個人成長の問題『学生と先哲』[編著]日本評論社、1937年12月27日[第2版：1946年11月10日。『学窓記』、『全集18』収録]

『社会思想史・経済学史・経済原論文獻』<編>日本評論社、1938年5月27日

序文『学生と社会』[編著]日本評論社、1938年6月24日[復刻：『近代日本青年期教育叢書 第1期(青年期教育論) 第6巻』(日本図書センター、1990年)。『全集18』収録]

職業の問題『学生と社会』[編著]日本評論社、1938年6月24日[復刻：『近代日本青年期教育叢書 第1期(青年期教育論) 第6巻』(日本図書センター、1990年)。『学窓記』、『全集18』収録]

序文『学生と読書』[編著]日本評論社、1938年12月30日[『全集18』収録]

読書の意義『学生と読書』[編著]日本評論社、1938年12月30日[『学生と読書』日本評論社、1948年。『学窓記』、編集・改題版『読書と人生』<現代教養文庫 37>社会思想研究会出版部、1952年9月25日、『全集18』収録]

序文『学生と学園』[編著]日本評論社、1939年6月25日[『全集18』収録]

教師と学生『学生と学園』[編著]日本評論社、1939年6月25日[『学窓記』、『全集18』収録]

序文『学生と科学』[編著]日本評論社、1939年12月20日[『全集18』収録]

科学への考察『学生と科学』[編著]日本評論社、1939年12月20日[『学窓記』、『全集18』収録]

『金井延の生涯と学蹟』日本評論社、1939年12月25日

序文『学生と歴史』[編著]日本評論社、1940年4月1日[『全集18』収録]

歴史への関心『学生と歴史』[編著]日本評論社、1940年4月1日[第2版：1946年11月1日。『学窓記』、『全集18』収録]

『学生に与ふ』日本評論社、1940年6月15日【1 はしがき、2 社会に於ける学生の地位、3 教育、4 学校、5 教養(一)、6 教養(二)、7 学問、8 哲学、9 科学、10 歴史、11 芸術、12 道德、13 宗教、14 読むこと、15 考へること、書くこと、語ること、16 講義、試験、17 日常生活、18 修養、19 親子愛、20 師弟愛、21 友情、22 恋愛、23 学園、24 同胞愛、25 社会、26 就業、27 卒業】[『学生に与う 第1部 価値あるもの』<現代教養文庫 17>社会思想研究会出版部、1951年、『学生に与う 第2部 私たちの生き方』<現代教養文庫 18>社会思想研究会出版部、1951年。『河合栄治郎全集 12 学生に与う』<現代教養

- 文庫 67>社会思想研究会出版部、1955年8月5日。『学生に与う[新版]』<現代教養文庫>社会思想社、1997年。『学生に与う[新版]』[OD版]<教養ワイドコレクション>文元社、2004年。『全集14』収録
- 序文『学生と日本』[編著]日本評論社、1940年8月15日[『全集18』収録]
- 社会科学『学生と日本』[編著]日本評論社、1940年8月15日[『学窓記』、『全集18』収録]
- 序文『学生と芸術』[編著]日本評論社、1940年11月23日[『全集18』収録]
- 旅の思ひ出『学生と芸術』[編著]日本評論社、1940年11月23日[『教壇生活二十年』、『現代隨想全集 第7巻』、『全集18』収録]
- 芸術に関する書簡『学生と芸術』[編著]日本評論社、1940年11月23日[『学窓記』、『全集18』収録]
- 『国民に懇ふ』日本評論社、1941年4月20日【序、1はしがき、2唯二途あるのみ、3政府への進言、4国民への警告、5国内分裂を警戒せよ、6日本の使命、あとがき】[『全集14』収録]
- 序文『学生と西洋』[編著]日本評論社、1941年4月15日[『全集18』収録]
- 英国の哲学『学生と西洋』[編著]日本評論社、1941年4月15日[『学窓記』、『全集18』収録]
- 西洋文化に関する書簡『学生と西洋』[編著]日本評論社、1941年4月15日[『学窓記』、『全集18』収録]
- 『明治思想史の一断面—金井延を中心として—』日本評論社、1941年4月20日[『全集8』収録]
- 序文『学生と哲学』[編著]<学生叢書12>日本評論社、1941年10月20日[『全集18』収録]
- 自由主義経験主義—その認識論についての問答—『学生と哲学』[編著]<学生叢書12>日本評論社、1941年10月20日[『学窓記』、『全集18』収録]
- 道德生活と哲学『学生と哲学』[編著]<学生叢書12>日本評論社、1941年10月20日[『学窓記』、『全集18』収録]
- 『教養文献解説』[編著]日本評論社、1943年12月20日【序、思想、哲学、哲学史、道德哲学、社会哲学、社会思想、伝記】[序文を『全集18』収録][河合榮治郎・木村健康編『増訂版 教養文献解説 上・下巻』1949年4月20日、1950年9月5日]
- 『自由主義の擁護』白晝書院、1946年10月15日【1現代に於ける自由主義、2自由主義の再検討、3改革原理としての自由主義、4国家主義の批判、5自由主義の弁明】[白晝書院、1947年4月15日。<角川文庫>角川書店、1951年、改版；1970年]
- 『社会思想と理想主義』実業之日本社、1947年11月25日【1現代思想界の解剖と批判[1932年秋講演於文部省主催成人教育講座於東京帝国大学]、2日本に於ける国家社会主義的傾向[1932年2月25日講演於工業倶楽部経済研究会]、3独逸国民社会主義の解剖[1933年5月26日講演於関東産業団体連合会会合、6月印刷]、4日本に於ける超国家主義の背景】[『全集13』収録]
- 『教壇生活二十年』鬼怒書房、1948年2月25日【1書齋に就て、2読書漫筆、3吾が書齋より、4米国生活の思ひ出、5教壇生活二十年、6金井延の伝記執筆の感想、7旅の思ひ出、8昨今の心境—奈良にて—、9奈良の再遊、10奈良紀南旅行、11昨今の感想、12六年間の回顧(慰安激励会の挨拶)】[<角川文庫>角川書店、1952年2月10日]
- 『学問と政治』社会思想研究会出版部、1948年2月1日【1科学・哲学・大学、2教育者に寄するの言、3社会大衆党の任務、4社会大衆党とその支持層、5流れに抗して[非常時特別論文]、6英国労働史上に於ける石炭罷業】
- 『自由主義の歴史と理論—東大に於ける特別講義—』社会思想研究会出版部、1948年6月20日【第1部自由主義の歴史(1自由主義の世界観、2自由主義の思想と実践)、第2部(1自由の概念、2自由主義の概念、3自由主義の哲学、4自由主義の内容、5自由主義と他の思想との関係、6現代に於ける自由主義)、

自由主義に関する参考文献、付録 1 ミルの『自由論』を読む】〔＜現代教養文庫 25＞1952 年。中国語訳：『自由主義の歴史と理論』＜現代国民基本知識叢書 第 3 輯＞中華出版事業委員会、1955 年〕

『学窓記』社会思想研究会出版部、1948 年 12 月 25 日【1 個人成長の問題、2 教師と学生、3 友情、4 読書の意義、5 職業の問題、6 道徳生活と哲学、7 自然主義・経験主義—その認識論についての問答—、8 英国の哲学、9 科学への考察、10 社会科学、11 歴史への関心、12 西洋文化に関する書簡、13 芸術に関する書簡】『全集』18 収録：1 個人成長の問題、2 読書の意義、3 書齋に就いて、4 道徳生活と哲学、5 自然主義・経験主義、6 英国の哲学、7 科学への考察、8 日本の社会科学、9 歴史への関心、10 芸術に関する書簡、11 旅の思い出、12 西洋文化に関する書簡、13 教師と学生、14 友情、15 職業の問題】

『唯一筋の路』日本評論社、1948 年 12 月 1 日【晩年の日記・メモ：匆忙の四年間(1935～38 年：美濃部事件に就て、一九三五年の回顧、一九三六年の回顧、一九三八年の回顧)、大学を去る(1939 年 1、2 月)、公判の記(1940～41 年：地方裁判所公判の記、控訴院公判の記)、病床・休養・読書(1942 年：病床の記、軽井沢読書日記)、西田哲学覚書(1942、43 年)、初夏の旅日記(1943 年 5 月)、「理想主義体系」のために(1942～44 年：自己の体系の再検討、理想主義体系の構想、一九三七年八月以来の理想主義体系の経過、「理想主義体系の覚え書」より)、カント研究の経過(1943～44 年：カント研究第一期、宗教哲学の研究第一期、第二期カント研究、カントに関する断片)、人格に関する思索(1943～44 年：一九四三年の勉学、箱根日記、人格に就ての感想)、最後の日記(1944 年 1～2 月)】

『コミンテルンの運命』弘文堂、1950 年 5 月 30 日【1 コミンテルンの崩壊、2 ヒットラーの国民社会主義運動】

『私の社会主義』社会思想研究会出版部、1950 年 6 月 10 日【1 私の社会主義、2 国家観について、3 国家主義批判について】〔＜現代教養文庫 26＞(社会思想研究会出版部、1952 年)、『全集 13』収録〕

『赤城山日記—河合榮治郎若き日の日記—』＜河合榮治郎研究会創立 30 周年記念出版＞松井慎一郎編、桜美林大学北東アジア総合研究所、2013 年 3 月 15 日

## 講義録

『独逸社会民主党史論 第 1 分冊』文精社、1936 年 10 月 26 日＜1937 年度東京帝国大学経済学部講義＞

『独逸社会民主党史論 第 1 分冊』東京プリント刊行会、1936 年＜1937 年度東京帝国大学講義＞

『社会政策』東京プリント刊行会、1937 年 2 月＜1937 年度東京帝国大学講義＞

『ファツシズム論』帝大プリント聯盟、1937 年 9 月 15 日＜昭和 12 年度東京帝国大学経済・法学部講義＞

『英語経済学第二部(一)—翻訳— E.パーカー著「最近英国政治思想論」』帝大プリント聯盟、1937 年 12 月 10 日[1937 年 4 月-10 月迄の東京帝国大学経済学部講義]

『ファツシズム論 (社会政策講義の中) (全)』文精社、1937 年＜東京帝国大学法・経済学部講義＞

『社会政策 (一)』帝大プリント聯盟、1938 年 1 月 21 日＜1937 年 10 月中旬—12 月末まで、東京帝国大学経済学部・法学部講義＞

## 選集・全集

『河合榮治郎選集』日本評論社、1946-1950 年

『河合榮治郎選集 1 社会思想家評伝[第 2 版].』1946 年 12 月 10 日

『河合榮治郎選集 2 第一学生生活』、1947 年 1 月 15 日

『河合榮治郎選集 3 社会政策原理[第 2 版].』、1947 年 10 月 25 日

『河合榮治郎選集 4 英国社会主義史研究』、1948 年 2 月 15 日

- 『河合栄治郎選集 5 在欧通信』、1948年2月20日
- 『河合栄治郎選集 6 増訂 社会思想研究』、1949年2月10日
- 『河合栄治郎選集 7 トーマス・ヒル・グリーンの思想体系（上）』、1949年5月20日
- 『河合栄治郎選集 8 トーマス・ヒル・グリーンの思想体系（下）』、1949年9月20日
- 『河合栄治郎選集 9 明治思想史の一断面』、1949年6月20日
- 『河合栄治郎選集 10 独逸社会民主党史』、1950年9月10日
- 『河合栄治郎全集』〈現代教養文庫〉社会思想研究会出版部、1952-55年
- 『河合栄治郎全集 1 社会政策原理』[上・下]〈現代教養文庫 51-52〉、1952年
- 『河合栄治郎全集 2 トーマス・ヒル・グリーンの思想体系 第1部』〈現代教養文庫 53〉、1958年
- 『河合栄治郎全集 3 社会思想史研究』〈現代教養文庫 56〉、1952年
- 『河合栄治郎全集 4 第1部 英国社会主義史研究 英国派社会主義史概観』〈現代教養文庫 57〉、1952年
- 『河合栄治郎全集 4 第2部 英国社会主義史研究 現代英国社会主義の成立』〈現代教養文庫 58〉、1952年
- 『河合栄治郎全集 5 英国労働党論』〈現代教養文庫 59〉、1953年
- \* 『河合栄治郎全集 6 独逸社会民主党論』〈刊行の有無未詳〉
- 『河合栄治郎全集 7 社会思想家評伝』〈現代教養文庫 62〉、1952年
- 『河合栄治郎全集 8 自由主義の歴史と理論』〈現代教養文庫 63〉、1952年
- \* 『河合栄治郎全集 9 明治思想史の一断面』〈刊行の有無未詳〉
- \* 『河合栄治郎全集 10 在欧通信』〈刊行の有無未詳〉
- 『河合栄治郎全集 11 社会思想と理想主義』〈現代教養文庫 66〉、1953年
- 『河合栄治郎全集 12 学生に与う』〈現代教養文庫 67〉、1955年
- 『河合栄治郎全集 15 学窓記』〈現代教養文庫 72〉、1953年
- 『河合栄治郎全集 21 マルキシズムとは何か』〈現代教養文庫 79〉、1953年
- 『現代隨想全集 第7巻 河合栄治郎 谷川徹三集』創元社、1953年12月25日【1 学生時代の回顧、2 教壇生活二十年、3 六年間の回顧、4 書齋に就て、5 読書漫筆、6 旅の思ひ出、7 大学生生活の意義、8 学窓を出づる女性に与ふ、9 独逸学界の印象、10 露西亞の旅、11 八年振りの英国、12 ベルンシュタインの思ひ出、13 新渡戸稲造博士】
- 『河合栄治郎全集』全23巻、社会思想研究会編、社会思想社、1967-1970年[復刊：社会思想社、1991年]
- 『河合栄治郎全集 第1巻 ト・マス・ヒル・グリーンの思想体系』1968年6月20日
- 『河合栄治郎全集 第2巻 トーマス・ヒル・グリーンの思想体系』1968年8月20日
- 『河合栄治郎全集 第3巻 社会政策原理』1968年2月20日
- 『河合栄治郎全集 第4巻 社会思想史研究』1967年12月20日
- 『河合栄治郎全集 第5巻 英国社会主義史研究 英国労働史上に於ける石炭罷業』1968年3月20日
- 『河合栄治郎全集 第6巻 欧州最近の動向 英国労働党のイデオロギー』1968年4月20日
- 『河合栄治郎全集 第7巻 社会思想家評伝』1967年10月20日
- 『河合栄治郎全集 第8巻 明治思想史の一断面』1969年1月20日
- 『河合栄治郎全集 第9巻 自由主義の歴史と理論 ドイツ社会民主党史論』1969年2月20日



- 『河合栄治郎全集 第10巻 労働問題研究』1968年11月20日<12篇>
- 『河合栄治郎全集 第11巻 ファシズム批判』1967年11月20日
- 『河合栄治郎全集 第12巻 時局と自由主義 マルキシズムとは何か』1968年7月20日
- 『河合栄治郎全集 第13巻 社会思想と理想主義 私の社会主義』1968年10月20日
- 『河合栄治郎全集 第14巻 学生に与う 国民に懇う』1967年9月20日
- 『河合栄治郎全集 第15巻 大学生生活の反省 書斎の窓から』1968年1月20日
- 『河合栄治郎全集 第16巻 第一学生生活』1968年5月20日
- 『河合栄治郎全集 第17巻 第二学生生活 在欧通信』1968年9月20日
- 『河合栄治郎全集 第18巻 学窓記』1968年12月20日
- 『河合栄治郎全集 第19巻 学生思想問題 時事評論集』1969年3月20日
- 『河合栄治郎全集 第20巻 随想集』1969年4月20日[「研究ノート」から「西田哲学研究」を、小坂国継編  
『西田幾多郎研究資料集成 第9巻 (論文集 2)』(クレス出版、2012年)収録]
- 『河合栄治郎全集 第21巻 裁判記録』1969年6月20日
- 『河合栄治郎全集 第22巻 日記Ⅰ』1969年5月20日
- 『河合栄治郎全集 第23巻 日記Ⅱ』1969年7月30日

## 2. 論文等<253 篇>

### 1910(明治 43)年

\*鐘の音[5月 22 日於慶応義塾連合演説会]『雄弁』月日未詳[『青年雄弁集』(大日本雄弁会、1913 年 8 月 8 日)収録]

### 1915(大正 4)年

戦の将来を懐ふ、3 月 12 日講演大要於第一高等学校弁論部[「労働問題研究に対する志を言ふ」と改題『労働問題研究』、さらに「官に就くに際して」と改題『学生生活』、『全集 16』収録]

### 1916(大正 5)年

工場法の実施について『東方時論』1-3、11 月 1 日[『労働問題研究』、『全集 10』収録]

### 1917(大正 6)年

工場法の根本問題『産業評論』2-9、10、9 月 1 日、10 月 1 日

動産抵当の必要を論ず『産業評論』2-10、10 月 1 日

工業証券金融論『産業評論』2-11、11 月 1 日

本邦機械工業の概観『産業評論』2-12、3-2、4、12 月 1 日、1918 年 2 月 1 日、4 月 1 日

### 1918(大正 7)年

ビスマルクの社会政策『産業評論』3-1、3、1 月 1 日、3 月 1 日

工業証券金融論[「経済時事」]『電気世界』8-1、2、1 月 15 日、2 月 15 日

エラスムスとルーテル、5 月 24 日講演大要於第一高等学校弁論部読書演説会[『労働問題研究』、『学生生活』、『全集 16』収録]

独逸関税政策の変遷『産業評論』3-6、6 月 1 日

独逸二於ケル強制的企業合同『国家学会雑誌』32-6、6 月 1 日

工業金融の根本問題『太陽』24-8、6 月 15 日

本邦機械工業の現在及将来『日本経済新誌』23-10、8 月 15 日

本邦の機械工業の概観『内外商工時報』5-10、11、10 月 1 日、11 月 1 日

機械工業の概観と其将来『鉄工造船時報』3-11、11 月 20 日

### 1919(大正 8)年

動産抵当機関必要論『経済時論』[金星社刊]7-2、3、1 月 15 日、2 月 1 日

日米労働比較[帰朝談]『東京朝日新聞』5月13日

企業家の保護と共に労働者の保護 日本の産業の短所を忘れて労働問題は解決されぬ[講演概要]『中外商業新報』5月30日

日本の労働問題[「月曜論壇」]『国民新聞』7月7、14日[「流行となれる労働問題」と改題]『労働問題研究』、『全集10』収録

信念を基本とする労働運動の要求『改造』1-5、8月1日[「労働運動の根本精神」と改題]『労働問題研究』、『全集10』収録

社会政策の分岐点[「労働組合同盟罷工研究」]『改造』1-6、9月1日[『労働問題研究』、『全集10』収録]

労働問題に対する社会的施設『雄弁』10-10、9月1日[『労働問題研究』、『全集10』収録]

我国当面の労働政策『財政経済時報』6-10、10月1日[『労働問題研究』、『全集10』収録]

米国の労働立法と労働運動『読売新聞』10月5、7~12、14、16~31日、11月1~7、9、10、12、15、17、21、22、24~27日[『労働問題研究』、『全集10』収録]

労働時間問題を論ず『太陽』25-13、11月1日[『労働問題研究』、『全集10』収録]

労働政策の基調を論ず『東京朝日新聞』11月7~14、17日[『労働問題研究』、『全集10』収録]

官を辞するに際して『東京朝日新聞』11月17~19、21~23、25~30日、12月1、2日[『学生生活』、『全集16』収録]

## 1922(大正11)年

アダム・スミスと経済学『国家学会雑誌』36-4、4月1日[「アダム・スミスと自由主義経済学」と改題]『社会思想史研究』、『全集4』収録

ジェレミー・ベンサムと経済学『経済学論集』1-1、6月15日[「ジェレミー・ベンサムと功利主義経済学」と改題]『社会思想史研究』、『全集4』収録

英国思想史の過渡時代『国家学会雑誌』36-9、10、9月1日、10月1日[「十九世紀英国思想史の過渡時代」と改題]『社会思想史研究』、『全集4』収録

## 1923(大正12)年

過渡的思想家としてのジョン・スチュアート・ミル『経済学論集』1-3、2月15日[『社会思想史研究』、『全集4』収録]

## 1925(大正14)年

在欧通信 英国労働運動『改造』7-5、5月1日[『在欧通信』、『選集5』、『全集17』収録]

在欧通信 倫敦生活『改造』7-6、6月1日[『在欧通信』、『選集5』、『全集17』収録]

在欧通信 ウッドブルック・セツトルメント『改造』7-7、7月1日[『在欧通信』、『選集5』、『全集17』収録]

在欧通信 夏の英国『改造』7-8、8月1日[『在欧通信』、『選集5』、『全集17』収録]

在欧通信 オックスフォードの学園『改造』7-9、9月1日[『在欧通信』、『選集5』、『全集17』収録]

在欧通信 大陸に立つ迄『改造』7-10、10月1日 [『在欧通信』、『選集5』、『全集17』収録]

在欧通信 独逸学界『改造』7-11、11月1日 [独逸学界の印象『在欧通信』、『選集5』、『全集17』収録]

### 1926(大正15・昭和元年)

英国労働史上の石炭罷業[講演要旨文責在記者]『帝国大学新聞』167、5月24日

英国労働史上の石炭罷業『改造』8-6、6月1日 [『学問と政治』、『全集5』収録]

英国理想主義運動『経済学論集』5-1、6月20日

英国に於ける住宅政策『都市問題』3-1~3、7月1日、8月1日、9月1日

学界の一事業『経済往来』1-9、11月1日

自由主義[『経済随想』]『東京朝日新聞』12月11日 [東京朝日新聞経済部編『経済随想』(日本評論社、1927年)、『書齋の窓から』、『全集15』収録]

ベルンシュタインの『追放の時代』[『紹介及批評』]『経済学論集』5-3、12月15日 [『ベルンシュタインの『追放の時代』を読む』と改題『英国社会主義史研究』、『全集5』収録]

### 1927(昭和2)年

人としてのトーマス・ヒル・グリーン[『紹介及批評』]『経済学論集』5-4、3月15日

大学生活の意義を思ふ『帝国大学新聞』207、5月2日 [大学生活の意義『大学生活の反省』、『全集15』、『大学の運命と使命』(千倉書房、1930年)、『日本教育史基本文献・史料叢書13大学の運命と使命』(大空社、1992年)収録]

「余が感銘を与へられた書」『帝国大学新聞』208、5月9日

朝鮮のこと『経済往来』2-6、6月1日 [『書齋の窓から』、『全集15』収録]

千八百七十年代の英国労働界『経済学論集』6-1、7月15日 [『英国社会主義史研究』、『全集5』収録]

思想に対する自由主義の使命『工場世界』8-16、8月15日

高原より『経済往来』2-10、10月1日 [『書齋の窓から』、『全集15』収録]

フェビアン社会主義序論『経済学論集』6-2、10月10日 [『英国社会主義史研究』、『全集5』収録]

### 1928(昭和3)年

一学徒の手記『経済往来』3-1、1月1日 [『書齋の窓から』、『全集15』収録]

トーマス・ヒル・グリーンの世界哲学『国家学会雑誌』42-1、2、4、5、1月1日、2月1日、4月1日、5月1日

読書の折々『経友』10、1月10日 [読書その折々『書齋の窓から』、『全集15』収録]

「寛容の思想」に関する研究—自由主義史の一断面—『経済学論集』6-4、4月20日 [『増訂社会思想史研究』、『全集4』収録]

今は起つて反動と戦ふの時[「台風一転して学内頗に動揺す 本学の処置と諸家の意見」]『帝国大学新聞』249、4月23日

学内のあらゆる傾向を自由公平に紹介せよ[「理事就任に際して」]『帝国大学新聞』250、4月30日  
理想主義的社會学徒シュルツェ・ゲバーニッツ[「学界の巨星」]『帝国大学新聞』251、5月7日  
大学々園に於る自由主義の使命を思ふ『改造』10-6、6月1日[『大学生生活の反省』、『全集15』収録]  
身辺雑記『経済往来』3-6、6月1日[『書齋の窓から』、『全集15』収録]  
人間自由に関する一論—トーマス・ヒル・グリーンの学説—『経済学論集』7-1、7月20日  
現代学生とマルクス主義『教育研究』331、8月1日  
新天地座談会 河合栄治郎氏を中心に『新天地』8-10、10月1日[1928年9月4日座談会：中西、神守、  
貴島、飯澤]  
意志自由論『経済学論集』7-2、10月10日  
大学に於ける自由『帝国大学新聞』275、276、12月3、10日[『大学生生活の反省』、『全集15』、『大学の運  
命と使命』(千倉書房、1930年)、『日本教育史基本文献・史料叢書 13 大学の運命と使命』(大空社、1992  
年)収録]

#### 1929(昭和4)年

心の中の間答『経済往来』4-1、1月1日[『書齋の窓から』、『全集15』収録]  
マルクスより出でてマルクスを克服するもの『中央公論』44-1、1月1日[松田道雄編『近代日本思想大系  
35 昭和思想集 1』(筑摩書房、1974年)、『全集19』収録]  
黎明を語る 明治廿年前後の社会思想『経済往来』4-2、2月1日[金井延談、河合栄治郎筆記]  
新入学生を迎ふ『帝国大学新聞』292、4月15日[『大学生生活の反省』、『全集15』収録]  
学窓を出でたる友に送る『経済往来』4-5、5月1日[『大学生生活の反省』、『全集15』収録]  
伝記に就て[「随想」]『帝国大学新聞』296、5月13日  
英国労働党のイデオロギー、6月23日講演於朝日講堂[『英国労働党のイデオロギー』、『全集6』収録]  
道德哲学の实践的価値『国家学会雑誌』43-6、6月1日  
討論の目的『帝国大学新聞』301、6月17日  
労働党首領ラムゼー・マクドナルド『経済往来』4-7、7月1日[「労働党首領ラムゼー・マクドナルド伝」  
と改題『英国労働党のイデオロギー[増補版]』、『全集6』収録]  
討論会に於ける感想[「説苑」]『経友』13、7月20日  
グリーン功利主義批判『経済学論集』8-1、9月15日  
嫌悪すべき学界の一傾向『改造』11-10、10月1日[『大学生生活の反省』、『全集15』収録]  
高原の生活『経済往来』4-10、10月1日[『書齋の窓から』、『全集15』収録]  
大学の運命と使命 森戸辰男氏に答ふ『帝国大学新聞』318、319、12月2、9日[『大学生生活の反省』、『全集  
15』、『大学の運命と使命』(千倉書房、1930年)、『日本教育史基本文献・史料叢書 13 大学の運命と使  
命』(大空社、1992年)収録]  
英国社会主義とマルクス主義との差異点[日本電報特別通信]『朝鮮及満州』256、3月1日

## 1930(昭和5)年

人物評論の論『経済往来』5-1、1月1日[『書齋の窓から』、『全集15』収録]

英国労働党の指導原理『工場世界』11-1、1930年1月1日

グリーンの道徳哲学『国家学会雑誌』44-1、3、1月1日、3月1日

一社会学徒の主問題『社会政策時報』112、1月1日[『大学生生活の反省』、『全集15』収録]

一社会改革者の内的煩悶ーミルの自叙伝を読むー『中央公論』45-1、1月1日[『大学生生活』、『全集16』収録]

大学の運命と使命 再び森戸辰男氏に答ふ『帝国大学新聞』328～331、2月24日、3月3、10、17日[『全集15』、『大学の運命と使命』(千倉書房、1930年)、『日本教育史基本文献・史料叢書13大学の運命と使命』(大空社、1992年)収録]

グリーンのカント、ヘーゲル批判『経済学論集』8-3、5月25日

人としての矢作先生『経友』15、7月20日

研究所の設立 大学教授の任務について『帝国大学新聞』356、10月20日[『学制改革論』(帝国大学新聞社編、帝国大学新聞社出版部、1934年10月8日)、『大学生生活の反省』、『全集15』収録]

大学の自由とは何か『中央公論』45-11、11月1日[『大学生生活の反省』、『全集15』収録]

『現代学生とマルキシズム』 三条・原口両君に答ふ[『投稿欄』]『帝国大学新聞』358、11月3日[『全集19』収録]

英国思想上に於けるトーマス・ヒル・グリーン[講演筆記・文責在記者]『倫理研究』11、12月1日

## 1931(昭和6)年

現代学生とマルキシズム『経済往来』6-1、1月1日[『大学生生活の反省』、『全集15』収録]

就職難と大学教育『帝国大学新聞』368、1月19日[『学制改革論』(帝国大学新聞社編、帝国大学新聞社出版部、1934年10月8日)、『大学生生活の反省』、『全集15』収録]

受検者よ大地を踏み『受験界』12-2、2月1日

マルキシズムの功罪『朝鮮及満州』279、2月1日

大学教育の再吟味『帝国大学新聞』372、2月16日[『学制改革論』(帝国大学新聞社編、帝国大学新聞社出版部、1934年10月8日)、『大学生生活の反省』、『全集15』収録]

フェビアン社会主義の経済理論『経済学論集』新1-1、4月1日[『英国社会主義史研究』、『全集5』収録]

男女学生左傾の事実とその対策座談会『婦人之友』25-5、5月1日[高良富子、赤松克磨、宮城タマヨ、杉山謙治、羽仁吉一、奥むめお、羽仁もと子]

学生思想問題の考察[1930年7月講述(於思想問題講習会)]『思想調査資料』10、11、5月、8月

経済学部について[「学制改正意見について」]『帝国大学新聞』393、7月6日

高原より『経済往来』6-10、10月1日[『書齋の窓から』、『全集15』収録]

国家か階級かー英国総選挙の批判『帝国大学新聞』406、11月9日

英国総選挙・批判[「特輯・時局の講座」]『サラリーマン』4-10、11月15日[発禁処分により『サラリーマ

ン』4・10改訂版、12月1日にも掲載]

英国総選挙の批判『中央公論』46-12、12月1日[『欧洲最近の動向』、「千九百三十一年の総選挙」と改題  
『英国社会主義史研究』、『全集6』収録]

### 1932(昭和7)年

国家社会主義の批判『帝国大学新聞』413~416、1月1、11、18、25日[『学生思想問題』、『フアッシズム  
批判』、『全集11』収録]

教育者は如何にマルキシズムに対すべきか『山口県教育』378、2月5日

マルキシズムに対する教育者の態度『愛媛教育』536、537、539 2月15日、3月15日、4月15日

国家社会主義抬頭の由来『帝国大学新聞』421~424、2月29日、3月7、14、21日[『学生思想問題』、『フ  
アッシズム批判』、『全集11』収録]

冬の日の随想/愛の生活[随感二篇]『経済往来』7-3、3月1日[『書齋の窓から』、『全集15』収録]

国家論と国家主義[「時論」]『経済学論集』2-4、4月1日

### 1933(昭和8)年

資本家は搾取方法を変更する[「学者は労働組合を何と見るか」]『労働』259、2月1日

独逸学界の印象『帝国大学新聞』477~480、4月24日、5月1、8、15日[『欧洲最近の動向』、『選集5』、  
『現代随想全集 第7巻』、『全集6』収録]

ヒトラーを中心とせる独逸政局の展望[5月9日於日比谷公会堂]『旬刊講演集』11・?、5月?日<未見>  
大学自由の問題『帝国大学新聞』482、5月29日[『滝川事件と大学自由の問題フアッシズム批判』、『全  
集11』、『現代史資料42 思想統制』(みすず書房、1976年)収録]

独逸政局の展望[「時論」]『国家学会雑誌』47-6、6月1日

独逸政局の展望『経済往来』8-6、6月1日[「ヒトラーの国民社会主義運動」と改題『経済往来』8-2、2月  
1日『欧洲最近の動向』、『コミンテルンの運命』、『全集6』収録]

ヒトラー内閣の政策とその将来[「評論」]『財政経済時報』20-6、6月1日

欧州雑感 ドイツ・ロシア・イギリスの近情を語る『実業之日本』36-13、7月1日

高等試験の狙つて居る処『受験界』14-7、7月1日

読書雑感『経友』21、7月10日[『学生生活』、『全集16』収録]

英国社会運動の変調『改造』15-7、7月1日[『欧洲最近の動向』、「最近社会運動の変調」と改題『英国社  
会主義史研究』、『全集6』収録]

国家・大学・大学令[「京大問題の批判」]『経済往来』8-7、7月1日[『フアッシズム批判』、『全集11』収  
録]

ナチスと京大問題[「ナチス焚書と京大事件」]『文化集団』1-2、7月1日

ヒトラー独逸のドイツ『労働経済』4-7、7月1日

八年振りの英国『経済往来』8-9、8月1日[『欧洲最近の動向』、『選集5』、『現代随想全集 第7巻』、『全

## 集 6』収録]

ヨーロッパに於ける社会運動最近の情勢『丁酉倫理会倫理講演集』370、8月1日

世界・文明及び自由を語る『婦人之友』27-9、9月1日[座談会：尾崎行雄、蠟山政道、羽仁吉一、羽仁もと子]

英国に於ける最近の政情[6月19日講演]『経済倶楽部講演』30、9月3日[『英国労働党のイデオロギー[増補版]』、『全集 6』収録]

自由主義の再検討『改造』15-10、10月1日[『ファシズム批判』、『自由主義の擁護』、『全集 11』収録]

人としての江原君[1933年8月9日追悼演説於江原万里告别式]『聖書之真理』71、10月1日[「人としての江原万里君」と改題『学生生活』、『全集 16』収録]

ロシアの旅『経済往来』8-12、11月1日[『欧洲最近の動向』、『選集 5』、『自由主義の擁護』、『現代隨想全集 第7巻』、『全集 6』収録]

五・一五事件の批判『文芸春秋』11-11、11月1日[『ファシズム批判』、『全集 11』収録]

欧米の学生生活を語る『帝国大学新聞』500、11月6日[座談会：伊藤貞市、野澤隆一、芳賀檀、入澤宗義、奥山信一、東龍太郎、大山松次郎]

非常時日本の実相[演説要旨於第567回三田演説会]『三田新聞』308、11月17日

非常時の実相とその克服『経済往来』8-13、12月1日[『ファシズム批判』、『全集 11』収録]

ベルンシュタインの思出『帝国大学新聞』506、12月18日[『法学隨想 文化と大学』(帝国大学新聞社出版部、1935年)収録、「ベルンシュタインの思ひ出」と改題『第一学生生活』、『現代隨想全集 第7巻』、『全集 16』収録]

逝ける金井延博士『経友』22、12月28日[『学生生活』、『全集 16』収録]

## 1934(昭和9)年

産業と労働の統制を語る座談会—新労働組合運動の展望—『労働経済』5-1、1月1日[12月8日座談会：小島精一、北岡寿逸、三浦鉄太郎、松岡駒吉、斉藤健一]

欧州社会運動の種々相『廓清』24-1、1月10日

大学改造論『経済往来』9-2、2月1日[発禁号『学生生活』、『全集 16』収録]

混沌たる思想界『中央公論』49-2、2月1日[「マルキシズム・ファシズム・リベラリズムの鼎立」と改題『ファシズム批判』、『全集 19』、原題のまま『全集 11』、松田道雄編『近代日本思想大系 35 昭和思想集 1』(筑摩書房、1974年)収録]

人としての矢作栄蔵先生『帝国農会報』24-2、2月1日[『学生生活』、『全集 16』収録]

議会主義か独裁主義か[1月31日講演於早稲田大学]『講演』245、2月20日

議会主義か独裁主義か『経済往来』9-3、3月1日[「議会主義と独裁主義との対立」と改題『ファシズム批判』、『全集 11』収録]

コミンテルンの崩壊『社会政策時報』162~164、3月1日、4月1日、5月1日[『欧洲最近の動向』、『コミンテルンの運命』、『全集 6』収録]

議会主義か独裁主義か『文明協会ニュース』<『日本と世界』12>3月10日



現代学生に与ふ『改造』16-5、4月1日[『学生生活』、『全集16』収録]

\*非常時日本の実相[講演於慶應義塾大学]『旬刊講演集』12-?、4月

独逸社会民主党とマルキシズムの修正『経済学論集』4-6、6月15日[『欧洲最近の動向』、『選集10』、『全集6』収録]

\*家庭に於ける婦人の職業『ホーム・ユニオン』6月1日<日本生活協同組合連合会資料室所蔵>

教育とマルキシズム『教育』2-7、7月1日[『学生生活』、『全集16』収録]

考察練磨を懈る勿れ—社会政策の受験者に—『受験界』15-7、7月1日

美濃部達吉著『議会政治の検討』『帝国大学新聞』536、7月2日

\*所謂非常の実相『政治経済新報』248、7月

赤字は市の負担に[「市電争議批判」]『帝国大学新聞』、9月17日

教育制度改革案『帝国大学新聞』542、9月24日[『学制改革論』(帝国大学新聞社編、帝国大学新聞社出版部、1934年10月8日)、『学生生活』、『全集16』収録]

国家主義の批判『改造』16-11、10月1日[『フアッシズム批判』、『自由主義の擁護』、『全集11』収録]

国際的不安の克服『経済往来』9-10、10月1日[『全集11』収録]

現代に於ける自由主義『社会政策時報』169、170、10月1日、11月1日[『フアッシズム批判』、『自由主義の擁護』、『全集11』収録]

初試練に暴露された現行調停法の欠陥『読売新聞』10月9日

欧州大戦の思ひ出『経友』23、11月20日[『全集20』収録]

## 1935(昭和10)年

教育制度改革管見『教育学術界』70-4、1月1日

ジェレミー・ベンサムの評伝 社会思想家評伝『経済往来』10-1、2、1月1日、2月1日[「ジェレミー・ベンサム」と改題『社会思想家評伝』、『選集1』、『全集7』収録]

良書紹介—自由主義の文献『ブック・ガイド』1月<未見>

\*現代日本の根本問題『庶民経済新聞』2月3日[『全集19』収録]

社会哲学と社会政策[「新刊批評」]『経済学論集』5-2、2月15日

思想および生活態度批判—河合荣治郎教授を中心に—[「三学都『学生生活』座談会」]『婦人之友』29-3、3月1日[座談会:安井琢磨、外山茂、松原光信、二宮敏夫、斉藤暹、平沢清一郎、松本七郎、森満枝、塩川幾久][『河合荣治郎全集 月報14 第14巻』1967年9月、『河合荣治郎全集 月報2 第7巻』1967年10月収録]

高等学校論『帝国大学新聞』565~567、3月4、11、18日[『学生生活』、『全集16』収録]

ジョン・スチュアート・ミル 社会思想家評伝『経済往来』10-3~5、3月1日、4月1日、5月1日[『社会思想家評伝』、『選集1』、『全集7』収録]

美濃部事件について、4月執筆[「匆忙の四年間」]『唯一筋の路』、昨今の生活『全集20』収録]

美濃部問題の批判『帝国大学新聞』573、4月15日[『時局と自由主義』、『全集12』収録]

改革原理としての思想体系『中央公論』50-5、5月1日[「改革原理としての自由主義」と改題『時局と自由主義』、『自由主義の擁護』、『全集12』収録]

大学生活の意義—新入大学生に与ふる形式を以つて—『行動』3-6、6月1日[『第一学生生活』、『現代随想全集 第7巻』、『全集16』収録]

トーマス・ヒル・グリーン 社会思想家評伝『経済往来』10-6、8、9、6月1日、8月1日、9月1日[『社会思想家評伝』、『選集1』、『全集7』収録]

社会哲学と社会政策[「新刊批評」]『経済学論集』5-5・6、6月1日

自由主義の批判を繞る思想界の鳥瞰『経済往来』10-7、7月1日[『時局と自由主義』、『全集12』収録]

自由主義批判講演会を開くに当りて[6月11日東京帝国大学経友会主催討論会(於東京帝国大学講堂)]『講演』295、7月10日

社会哲学と社会政策[「新刊批評」]『経済学論集』5-9、9月1日

自由主義とマルクス主義の相剋—自由主義のマルクスの批判の再批判—『日本評論』10-11、11月1日[『時局と自由主義』、『全集12』収録]

教学刷新と学制改革『帝国大学新聞』447、11月25日[『第二 学生生活』、『全集17』収録]

フェルヂナンド・ラッサール 社会思想家評『日本評論』10-10、12、11-1、10月1日、12月1日、1936年1月1日[『社会思想家評伝』、『選集1』、『全集7』収録]

## 1936(昭和11)年

一九三五年の回顧、1月執筆[『唯一筋の路』、『全集20』収録]

社会哲学と社会政策[「新刊批評」]『経済学論集』6-2、2月1日

自由主義論争の結末『日本評論』11-2、2月1日[『時局と自由主義』、『全集12』収録]

台湾の旅『帝国大学新聞』612、613、616、2月17、24日、3月16日[『第二 学生生活』、『全集17』収録]

二・二六事件に就いて[「非常時局の分析」]『帝国大学新聞』615、3月9日[「二・二六事件の批判」と改題『時局と自由主義』、『全集12』、「二・二六事件について」と改題、多田道太郎編『現代日本思想大系 18 自由主義』(筑摩書房、1965年)収録]

社会哲学と社会政策[「新刊批評」]『経済学論集』6-5、5月1日

時局に対して志を言ふ『中央公論』51-6、6月1日[『時局と自由主義』、『全集12』収録]

\*剛毅で積極的な態度が必要[「明日の青年を語る」]『明日』7-6、6月1日

著者の言葉[『社会思想家評伝』の著者自選のことば]『読売新聞』7月8日

室伏高信自選著書「青年の書」[「著者自選の著作を通じて観たる人・芸術・思想・批判」]『読売新聞』7月18、19日[「「青年の書」を読む」と改題、『第二 学生生活』、『全集17』収録]

帰省しつつある学生に送る書『帝国大学新聞』636、8月5日[帰省に就いて学生に与ふる『第二 学生生活』、『全集17』収録]

就職に就て学生に与ふる、9月21日講演於東京帝国大学[『全集17』収録]

社会哲学と社会政策[「新刊批評」]『経済学論集』6-10、10月1日

思ひつくまゝ[「わが家」]『婦人之友』30-11、11月1日

私の理想主義と自由主義『理想』68、11月1日[「学窓を出でたる後」と改題『第二 学生生活』、『全集 17』収録]

社会思想より観たる国際情勢『地の塩』92、12月19日

試験について学生に与ふ『経友』[25、12月20日][『第二 学生生活』、『全集 17』収録]

### 1937(昭和 12)年

教育者に寄するの序『改造』19-1、1月1日[『時局と自由主義』、『学問と政治』、『全集 12』収録]

社会哲学と社会政策[「新刊批評」]『経済学論集』7-1、1月1日

近頃の随想『日本評論』12-1、1月1日[『第二 学生生活』、『全集 17』収録]

師弟の人格的接触 演習制度が特色[「学部長より受験者に与ふ」]『帝国大学新聞』655、1月13日[大学入学受験者に与ふ『第二 学生生活』、『全集 17』収録]

自然科学の学生と教養、1月27日講演於東京帝国大学医学部鉄門倶楽部[『第二 学生生活』、『全集 17』収録]

一九三六年の回顧、1月執筆[『唯一筋の路』、『全集 20』収録]

二・二六事件の回顧『帝国大学新聞』662、3月1日[『時局と自由主義』、『全集 12』収録]

卒業学生に与ふ、3月31日演説於東京帝国大学卒業式[『第二 学生生活』、『全集 17』収録]

時局と学生『改造』19-4、4月1日[『第二 学生生活』、『全集 17』収録]

自然科学者と教養『科学知識』17-4、4月1日

二・二六の思ひ出『セルパン』75、4月1日[『第二 学生生活』、『全集 17』収録]

学窓を出づる女性に与ふ[「毎月評論」]『婦人之友』31-4、4月1日[『第二 学生生活』、『現代随想全集 第7巻』、『全集 17』収録]

大学予科の生活、4月19日紹介講演於東京帝国大学社会科学古典研究会 [『第二 学生生活』、『全集 17』収録]

社会大衆党の支持層[「社会大衆党論」]『改造』19-6、6月1日[『学問と政治』、『全集 19』収録]

社会大衆党の任務『中央公論』52-6、6月1日[『学問と政治』、『全集 19』収録]

非常時局特別論文『日本評論』12-7、7月1日[非常時局特別論文(流れに抗して)『学問と政治』、『全集 19』収録]

Neue politische Kräfte des Weltwirtschaftlichen Aufbaues『Weltwirtschaftliches Archiv』46-1、7月[「日本に於ける超国家主義の背景」と題して訳文を『社会思想と理想主義』、『全集 13』収録]

思想混沌と追究—「教養と文化の基礎」を読む—[「書評」]『帝国大学新聞』687、9月27日

日支問題論『中央公論』52-12、11月1日[『全集 19』収録]

外交の革新—外務当局に寄す—『中央公論』52-13、12月1日[『全集 19』収録]

### 1938(昭和 13)年

済南に入るの記『日本評論』13-3、2月1日[『全集 19』収録]

将来の日本への認識[慈恵医大第6回生物科学研究会講演、「説苑」]『日本医事新報』805、2月12日  
北京と天津『日本評論』13-4、3月1日[『全集19』収録]  
時局・大学・教授『日本評論』13-5、4月1日[『全集19』収録]  
科学・哲学・大学『改造』20-6、6月1日[『学問と政治』、『全集19』収録]  
吾が書齋より『理想』87、8月1日[『教壇生活二十年』、『全集20』収録]  
根本的思索を 帰省学生に与ふる書[「学生に与ふる書」]『帝国大学新聞』729、8月6日  
読書漫筆『改造』20-9、9月1日[『教壇生活二十年』、『現代隨想全集 第7巻』、『全集20』収録]  
米国生活の思ひ出『日本評論』13-10、9月1日[『教壇生活二十年』、『全集20』収録]  
社会政策開講の辞に就て『帝国大学新聞』733、9月26日[『全集20』収録]  
一学徒の歩める道『中央公論』53-10、10月1日<掲載禁止>[『全集20』収録]

### 1939(昭和14)年

大学を去る—昨今の心境、1月6日執筆[『唯一筋の路』、『全集20』収録]  
一九三八年の回顧、1月2日執筆[『唯一筋の路』、『全集20』収録]  
大学を去る—今日此頃—、3月2日執筆[『唯一筋の路』、『全集20』収録]  
教壇生活二十年『日本評論』14-4、5、4月1日、5月1日[『教壇生活二十年』、『現代隨想全集 第7巻』、『全集20』収録]  
昨今の心境、6月29日執筆[『教壇生活二十年』、『全集20』収録]  
金井延伝記執筆の感想、11月24日執筆[『教壇生活二十年』、『全集20』収録]

### 1940(昭和15)年

奈良の再遊、6月13日執筆[『教壇生活二十年』、『全集20』収録]

### 1941(昭和16)年

書齋に就て、11月執筆[『教壇生活二十年』、『全集18』収録]

### 1942(昭和17)年

昨今の感想、12月10日執筆[『教壇生活二十年』、『全集20』収録]  
奈良南紀旅行、12月24日執筆[『教壇生活二十年』、『全集20』収録]

### 1943(昭和18)年

六年間の回顧—慰安激励会の挨拶、6月27日講演於糖業会館[『教壇生活二十年』、『現代隨想全集 第7巻』、『全集20』収録]

### 1946(昭和 21)年

法廷に關える自由主義【国家觀について、社会主義について】『中央公論』61-2、3、2月1日、3月1日  
[「自由主義の弁明」と題して『自由主義の擁護』収録、『私の社会主義』と題して編集・刊行(社会思想研究会出版部、1950年6月10日)、『全集 21』(「弁論要旨」の中)収録]

### 1947(昭和 22)年

公判の記(遺稿一)『日本評論』22-2、2月1日[『唯一筋の路』、『全集 20』収録]

公判の記-控訴院公判の記(遺稿二)『日本評論』22-3・4、4月1日[『唯一筋の路』、『全集 20』収録]

病床の記-付軽井沢日記-(遺稿三)『日本評論』22-5・6、6月1日[『唯一筋の路』、『全集 20』収録]

西田哲学覚え書『日本評論』22-8、8月1日[『唯一筋の路』、『全集 20』収録]

最後の日記(遺稿)『日本評論』22-10・11、11月1日

### 1950(昭和 25)年

自由に死す『中央公論』65-1 別冊付録、1月1日[「公判記録より」と改題、多田道太郎編『現代日本思想大系 18 自由主義』(筑摩書房、1965年)抄録]

### 1968(昭和 43)年

若き日の読書ノート『社会思想研究』20-6~12、21-1、6月15日、7月15日、8月15日、9月15日、  
10月15日、11月15日、12月15日、**1969年**1月15日